

入札等監視委員会の議事概要の公表について

北九州市入札等監視委員会の令和7年度第4回定例会議を次のとおり開催したので、別添のとおりその議事概要を公表する。

記

開催日時 令和8年2月12日（木） 10：00～11：30

開催場所 本庁15階 15C会議室

令和7年度第4回 北九州市入札等監視委員会 議事概要

1 会議名

令和7年度第4回北九州市入札等監視委員会

2 開催日時

開催日時 令和8年2月12日(木) 10:00～11:30

開催場所 本庁15階 15C会議室

3 出席委員(五十音順)

古林 節子、中里 彰宏、樋上 弥寿子

4 議事

(1) 令和7年度第3四半期の工事契約状況等の報告

ア 次の事項について報告した。

- ・工事契約件数及び契約金額について
- ・建設工事等有資格業者に係る指名停止及び資格取消について

(2) 令和7年度第3四半期の工事契約抽出案件の審議

ア 抽出方法について

審議する案件は、令和7年度第3四半期に契約をした工事の中から、中里委員が10件(契約課契約分8件、東部整備事務所契約分2件)を抽出した。

イ 審議における質疑等

(問) 一般競争入札の中で入札参加者が最も多いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 折尾地区総合整備事業の一環で実施する土地区画整理に伴う区画道路の改良工事である。

土木Aランクの業者を対象に公告したところ、36者から入札参加申請があったが、8者が辞退したため、28者による競争入札となった。

本件工事は、一般的な土木工事であり、特別の技術を要するものではないため、業者にとって入札に参加しやすい内容であったのではないかと考えている。

(問) 総合評価、一般競争入札による建築工事で、最も金額が高く、入札参加業者が1者となっており、落札率が高いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 公共施設マネジメントのモデルプロジェクトである、門司港地域に点在する老朽化した公共施設を集約化する複合公共施設の建築を行う工事である。

大型の新築工事となるため、技術提案を評価する総合評価落札方式を採用した。

予定価格が高く、政府調達の対象となる案件であるため、工事の規模を鑑

み、単体、2社又は3社による共同企業体のいずれも参加可能として公告を行ったが、入札参加申請は1組の共同企業体のみであった。

入札参加者が1者であるため、総合評価の比較対象は無かったが、技術提案の評価に問題はなく、落札業者と決定した。

本件のように工期が長い大型の案件は、施工期間中の資材費や人件費の上昇等が懸念されるため、入札への参加を敬遠される傾向にある。

(問) 総合評価、一般競争入札による鋼構造物工事で、総合評価落札方式を採用した工事の中で2番目に金額が高く、入札参加業者が2者と少ないため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 若戸大橋の吊橋部分の劣化した橋桁について、既存の塗装を剥がし、劣化や不具合等修繕の必要がある箇所を修繕したうえで、新たに塗り替えを行う工事である。

高所での作業が必要であり、国の重要文化財である若戸大橋の工事であるため、技術提案を評価する総合評価落札方式を採用した。

2社又は3社による共同企業体を対象に公告を行ったところ、入札参加申請は2組であった。入札金額は2位であったが、価格以外の評価点は1位であり、これらを総合した評価値で1位となったため、落札業者と決定した。

なお、近年の鋼構造物工事全体の入札参加者は比較的少ない傾向にあり、本件においては、国内における同様の工事の元請としての施工実績を求めていることや、鋼構造物の客観点が高いことなど入札参加要件が難しいことから、参加者が少なかったのではないかと考えている。

(問) 総合評価、一般競争入札による鋼構造物工事で、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 紫川に架かる木製の橋の損傷した橋桁を取り外す工事で、河川内に仮栈橋を設置し、クレーンで橋桁の撤去を行うものである。

本件工事は、河川上での作業であり、工事箇所付近の歩行者への安全に配慮した施工が必要となることから、技術提案を評価する総合評価落札方式を採用した。

鋼構造物業者を対象に公告したところ、4者から入札参加申請があったが、1者が辞退したため、3者による競争入札となった。

入札の結果、入札金額、価格以外の評価点ともに1位であり、これらを総合した評価値で1位となったため、落札業者と決定した。

(問) 指名競争入札の工事の中で、最も指名業者数が多いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 北九州市立の小学校2校におけるトイレ設備の洋式化及びトイレの個室の改修を行う工事である。

本件工事は、一度西部地区の建築B、Cランク業者29者に指名を行ったが、15者が辞退、7者は反応がなく、2者が取消となり、入札に参加した5者全てが最低制限価格を下回り失格となったため、入札不調となった案件である。

そのため、今回は指名範囲を拡大して市内の建築B、Cランク業者63者を指名し、再度入札を行ったところ、23者が辞退し、19者は反応がなかったため、21者による競争入札となった。そのうち15者が最低制限価格を下回り失格となったため、残り6者のうち最も低い金額で入札した業者を落札者と決定した。

(問) 指名競争入札による舗装工事の中で、最も金額が高く、落札率が最も高いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 門司区の太刀浦海岸にあるコンテナターミナルにおいて、コンテナの入出庫時に検査を行うためのチェックングブリッジの舗装を行う工事である。

入札参加要件を満たす舗装業者21者を指名したところ、7者が辞退したため、14者による競争入札となった。そのうち10者が最低制限価格を下回り失格となったため、残り4者のうち最も低い金額で入札した業者を落札者と決定した。

(問) 指名競争入札による塗装工事の中で、最も金額が高く、落札率が最も低いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 県道271号線にある横断歩道橋において、既存の塗膜の剥離及び塗り替えを行う工事である。

西部地区で実績のある塗装業者22者を指名したところ、4者が辞退したため、18者による競争入札となった。

本件工事は、一般的な塗装工事であり、横断歩道橋の規模や価格帯が業者にとって取り組みやすいものであったため、比較的多くの業者が入札に参加した結果ではないかと考えている。

(問) 特命随意契約によるガス工事で、落札率が100%となっているため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 門司港地域の複合公共施設の都市ガス工事であり、施工可能な業者が1者しかいないため、特命随意契約となった。

単価が国土交通省や経済産業省の指針によって定められており、予定価格と見積価格が同額であるため、落札率が100%となった。

(問) 東部整備事務所の案件で、予定価格400万円以下の工事であるが、指名競争入札とした理由を知りたく抽出した。

(答) 情報公開サービス等で公表されている予定価格は消費税及び地方消費税相当額を除く金額であり、本件工事は、消費税及び地方消費税相当額を含めると予定価格400万円を超えるものである。北九州市契約規則に定める少額随意契約の対象外となるため、指名競争入札による契約方法を採用した。

(問) 東部整備事務所の指名競争入札による造園工事の中で、最も金額が高く、落札率が低いため、詳しい入札状況が知りたく抽出した。

(答) 主要地方道恒見朽網線の沿線において植樹を行う工事である。

入札参加要件を満たす15者を指名したところ、2者からは反応がなく、13者による競争入札となった。

本件工事は、工事内容が植樹のみの一般的な造園工事で、業者にとって取り組みやすい工事であるため、比較的落札率が低くなったのではないかと考えている。